

～新渡戸記念の～

## 『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第55回『『チャフル』 (Cheerful) ～ 「和解への条件」 ～』

2021年4月30日、ACPF メールマガジン6号 (ACPF メールマガジン No.6 2021年4月) が、送られてきた。「元検事総長の原田明夫氏は2017年4月6日に他界されており、この4月は5回忌となります。この度、ACPFの堤哲評議員を通じまして、原田氏と生前交流のあった樋野興夫 新渡戸稲造記念センター 長から、原田氏を偲んで貴重な寄稿をいただきました。国際社会における日本(人)の役割を考え直す機会になれば幸いです。——国際社会における日本人のあるべき姿を考えるためにも、是非ご一読下さい。」と紹介されていた【原田明夫元検事総長を偲ぶ 「本物の強さ」～「欣然たる面貌、快然たる微笑をもて」～】。ただただ感謝である。

思えば、原田明夫氏(1939年11月3日～2017年4月6日)と、『新渡戸稲造 武士道100周年記念シンポ』(2000年)、『新渡戸稲造(1862-1933)生誕140年』(2002年)、『新渡戸稲造没後70年』(2003年)、さらに、国連大学で『新渡戸稲造5000円札さようならシンポ』(2004年)を開催する機会が与えられた。出会いは、1999年に遡る。筆者の新渡戸稲造についての文章を読まれた原田明夫氏から電話があり、原田明夫ご夫妻、筆者とwifeの4人で学士会館で会食し、翌2000年、東京・青山の国連大学での「武士道100周年」記念シンポに繋がった。また、月1回6:30 pm～六本木の原田明夫氏の自宅で、朋子夫人の手料理のカレーをいただきながら『21世紀の知的協力委員会』を開催した。新渡戸稲造が国際連盟事務次長だった1922年に「国際知的協力委員会」(現ユネスコ)を設置したことになったもので、当時のメンバーはフランスの哲学者ベルグソン(議長)、アインシュタインやキュリー夫人ら12人で構成された。原田明夫氏の論文「対決と和解への条件～新渡戸稲造博士に学ぶ～」では、「和解への条件」として、以下の4項目に新渡戸稲造の考え・行動を集約されている。

- (1) 賢明な寛容さ (the wise patience)
- (2) 行動より大切な静思 (contemplation beyond action)
- (3) 紛争や勝利より大切な理念 (vision beyond conflict and success)
- (4) 実例と実行 (example and own action)

新渡戸稲造は『チャフル』(Cheerful)を力説したと、矢内原忠雄(1893-1961)著『余の尊敬する人物』(岩波新書)に『チャフルな顔付を以て人に接し、見ず知らずの人に対しても、少しの親切でもしてあげるといふ心もちで暮らせば、社会はどれだけ温かくなるかも知れない。——それが日本人に対する外国人の誤解を除き、日本の国際的地位を高むる途である、というのが(新渡戸)先生の考えであります』と記述されている。原田明夫氏の一番の魅力は、いつも笑顔を絶やさない人柄で、『「他人へのおもいやり」、「他人の感情を尊敬することから生ずる謙遜・懇懃の心を常に忘れない」、「濃やかな配慮の人」』であった。「欣然たる面貌、快然たる微笑をもて」(新渡戸稲造)の実践である。原田明夫氏との『人生の邂逅』は、筆者の貴重な宝である！そして、筆者の『われ21世紀の新渡戸とならん』(日本語版 & 英語版)の出版にも繋がった。